

南海トラフ地震臨時情報における住民の反応、 フォローアップ調査（3か月後の現状と今後の行動意図）

東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター
特任助教 安本真也

| 01

(参考) アンケート調査 (1回目)

1 (参考) アンケート調査 (1回目)

直後調査概要

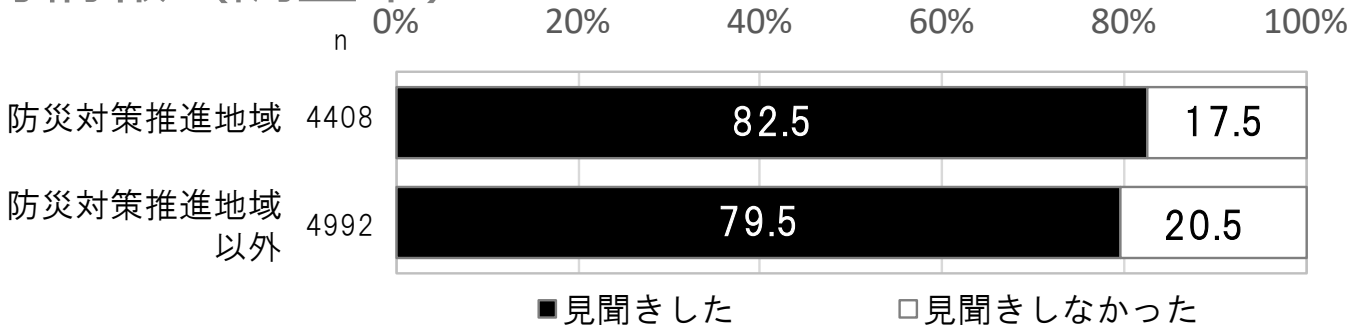
調査目的	令和6年8月8日に初めて発表された、南海トラフ地震臨時情報に対する日本国民の意識や行動の変化を測定すること
調査対象者	NTTコムリサーチに登録している47都道府県のアンケートモニター
調査手法	WEB調査
調査期間	2024年8月9～11日
有効回答	9,400票 (47都道府県から200票ずつ)

(詳細は、南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ 第18回資料「南海トラフ地震臨時情報における住民の反応 (関谷委員)」を参照)

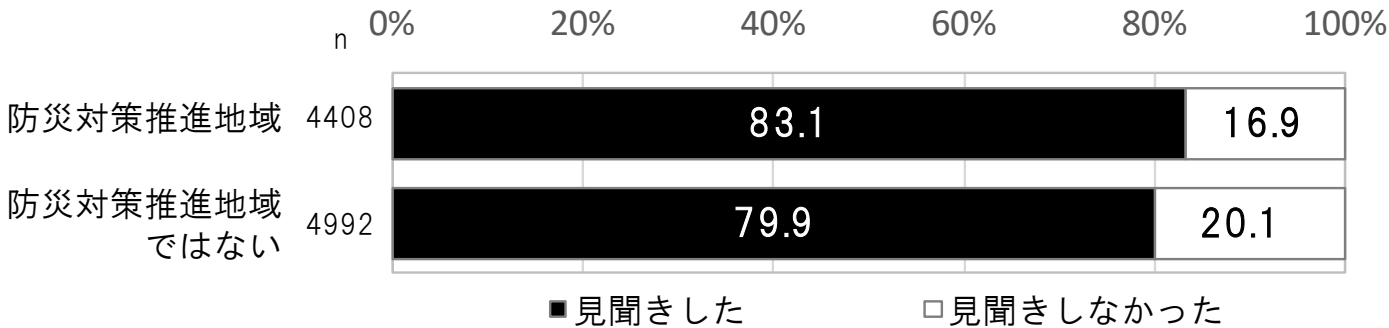
1 (参考) アンケート調査 (1回目)

直後調査 8月8日当日の情報認知

- 南海トラフ地震臨時情報 (調査中)



- 南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震注意)

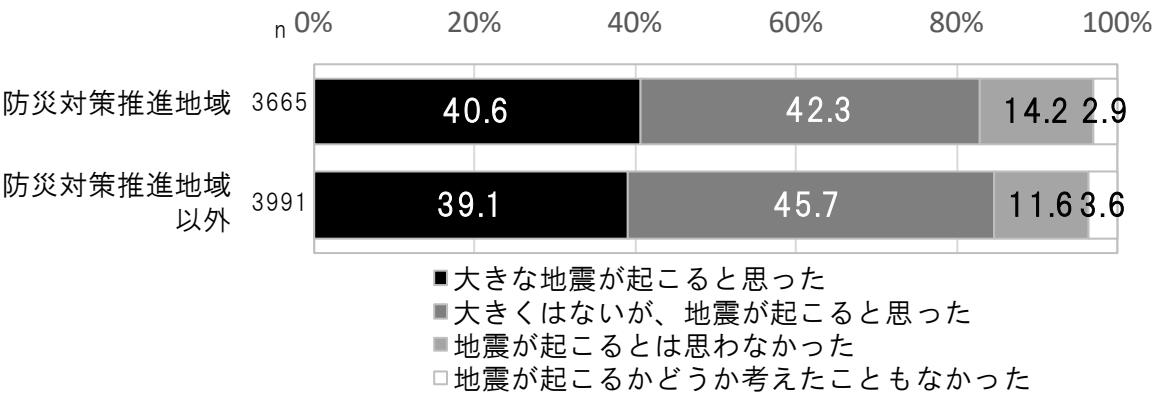


いずれも認知度は約8割と非常に高かった

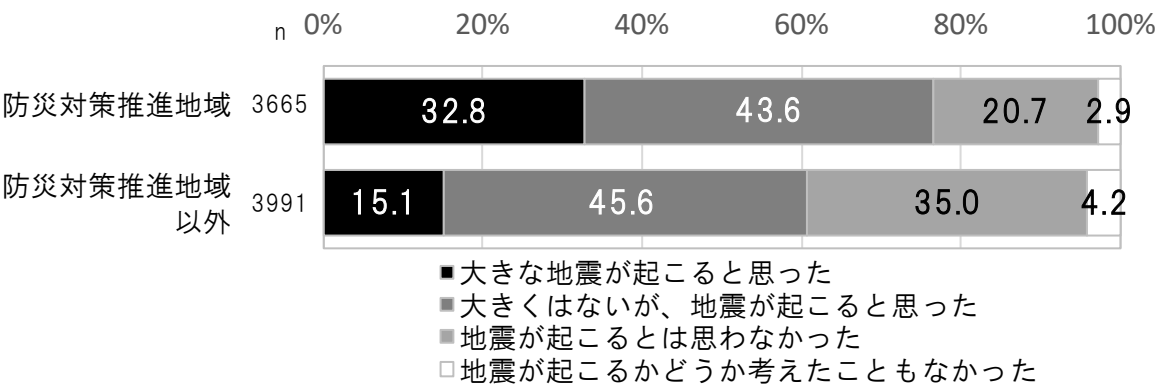
1 (参考) アンケート調査 (1回目)

直後調査 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を見聞きして、地震が起こると思ったか ※情報認知した人のみ

想定震源域



対象者の住む地域

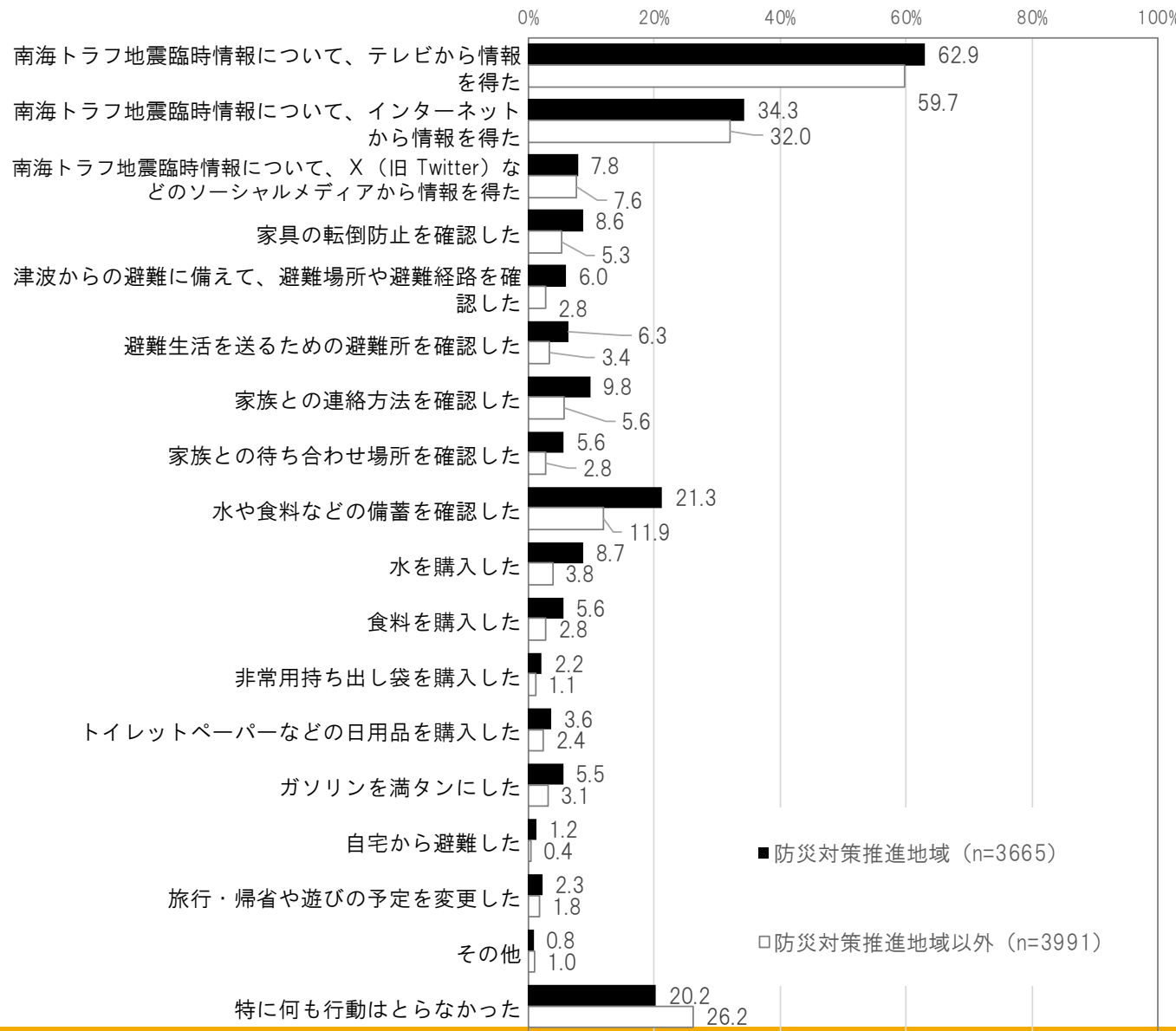


推進地域で「大きな地震が起こると思った」と回答した割合は3割程度

1 (参考) アンケート調査 (1回目)

直後調査 南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震注意) を聞いてからの行動 ※情報認知した人のみ

- 追加の情報収集源としてもテレビが圧倒的に多かった
- 日ごろの備えの「確認」が求められていたが、実際に行動した人は少数派
- 水の確認は比較的、ハードルが低い (『パラレル東京』の時も同様)
- 予定の変更については2%程度



論点

- これまでに行われていなかった「地震への準備」が促進されたのか？
- この情報の伝え方をどうすれば良かったのか？
- 今後の行動意図への影響は？

02 アンケート調査（2回目）

2 アンケート調査（2回目）

調査概要

調査目的	南海トラフ地震臨時情報への対応をさらに精緻に分析すること、ならびに今後の南海トラフ地震臨時情報への行動意図を明らかにすること
調査対象者	NTTコムリサーチに登録している47都道府県のアンケートモニター
調査手法	WEB調査
調査期間	2024年11月14～（調査中）
有効回答	9,400票（47都道府県から200票ずつ、性年代均等割り付け） 予定

以下では、南海トラフ地震防災対策推進地域とそれ以外で比較して分析

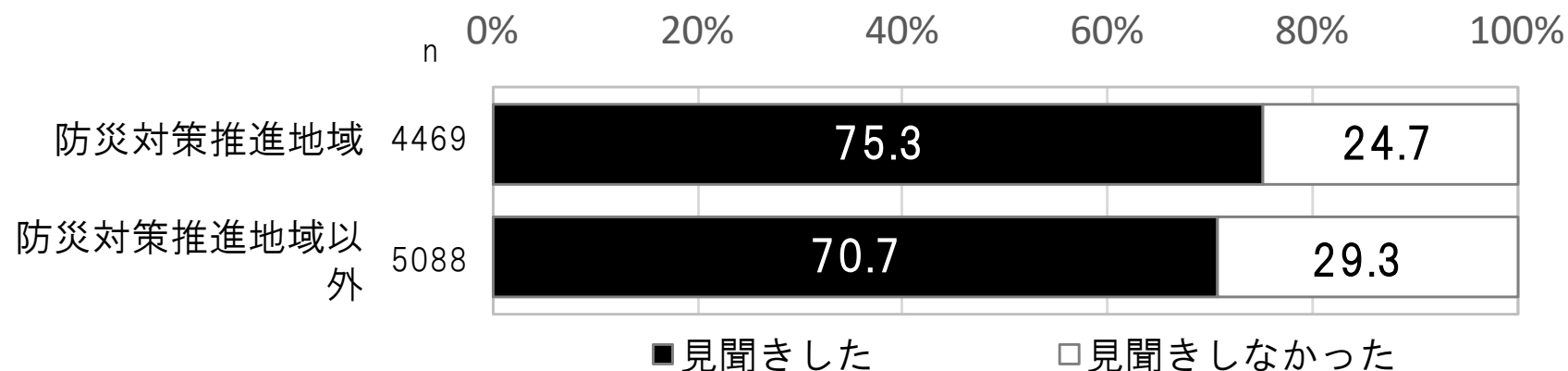
※この数値は速報値のため、今後修正される

2 アンケート調査（2回目）

※この数値は速報値のため、今後修正される

8月8日当日の情報認知

- 「8月8日（木）19時15分ごろ、気象庁から「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表されました。あなたは、この情報を見聞きしましたか。※前回と同一の設問



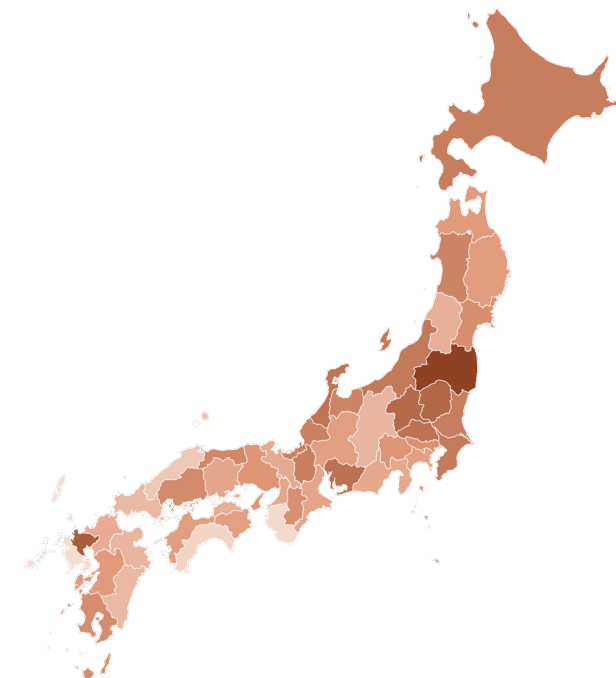
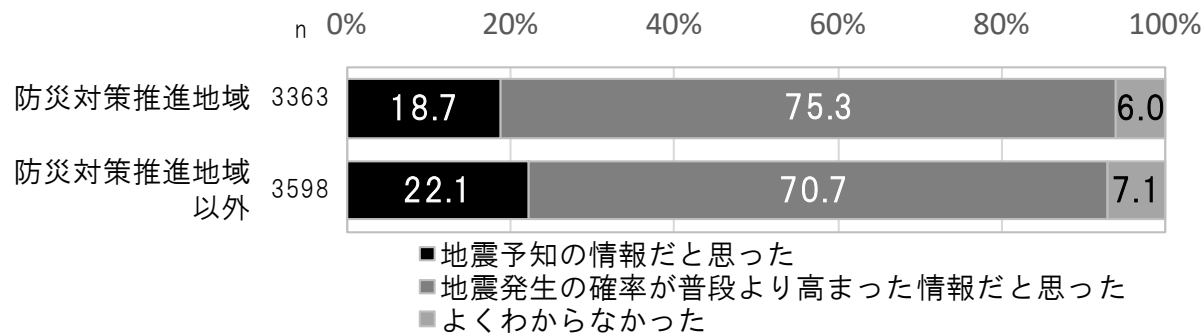
- 直後より1割程度、減少していた（忘れられている可能性）

2 アンケート調査（2回目）

※この数値は速報値のため、今後修正される

予知情報と誤解していないか

- どのような情報だと思ったか
※情報を見聞きした人のみ



- 単一回答で聞くと、予知情報と誤認していた人は2割程度であった
- 高知県、和歌山県等では相対的に低かった

提供元: Bing
© GeoNames, Microsoft, Zenrin

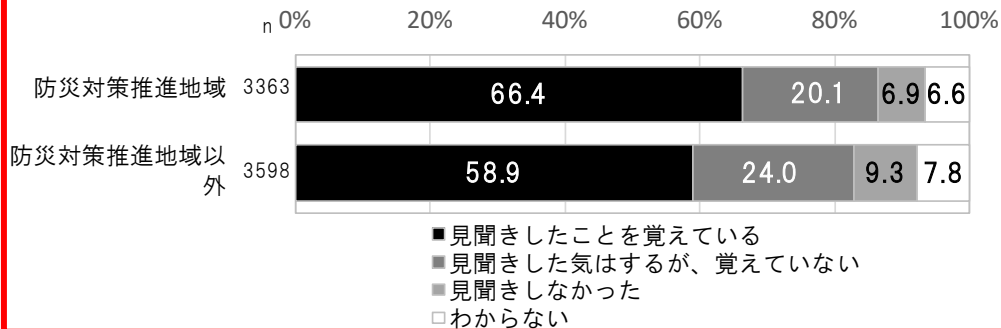
2 アンケート調査（2回目）

※この数値は速報値のため、今後修正される

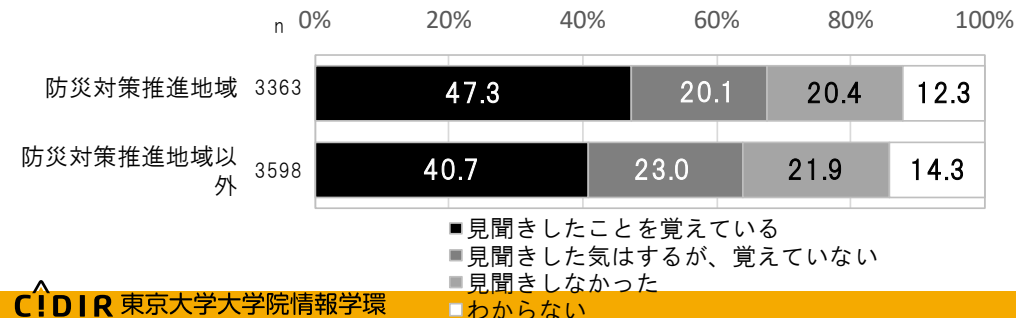
呼びかけの認知

- 「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」での呼びかけを見聞きたか。
※情報を見聞きた人のみ

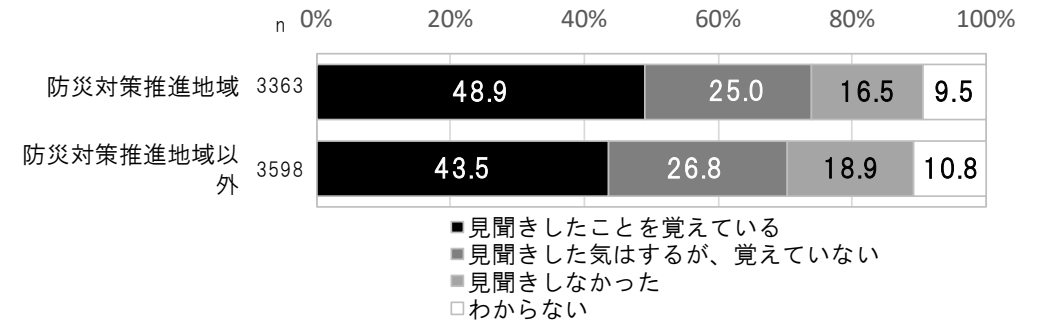
日頃からの地震への備えを再確認すること



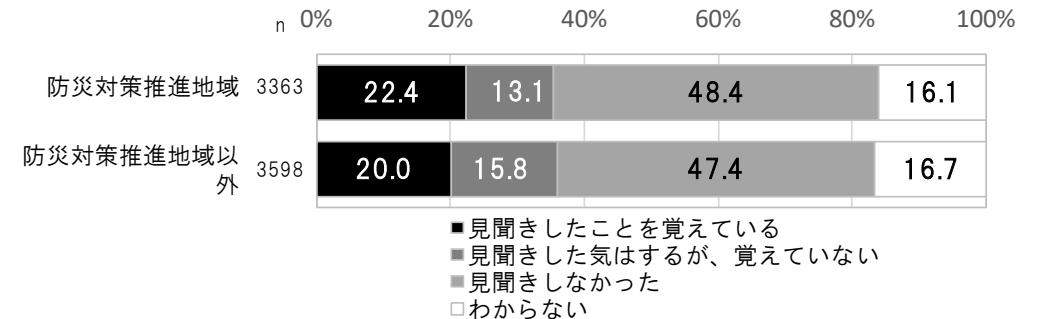
普段通りの生活続けること



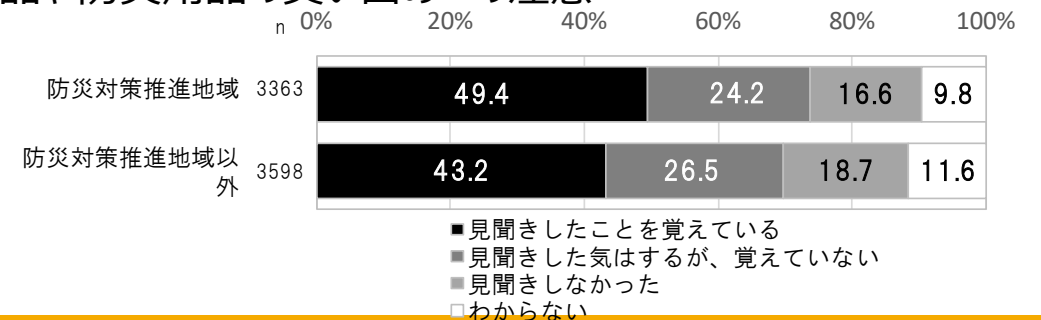
すぐに逃げられる体制での就寝など、できるだけ安全な防災行動をとること



海水浴へ行っても問題ないこと



食料品や防災用品の買い占めへの注意



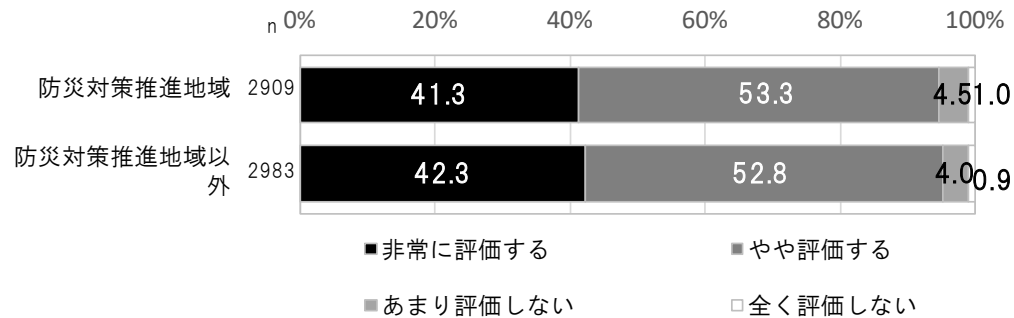
2 アンケート調査（2回目）

※この数値は速報値のため、今後修正される

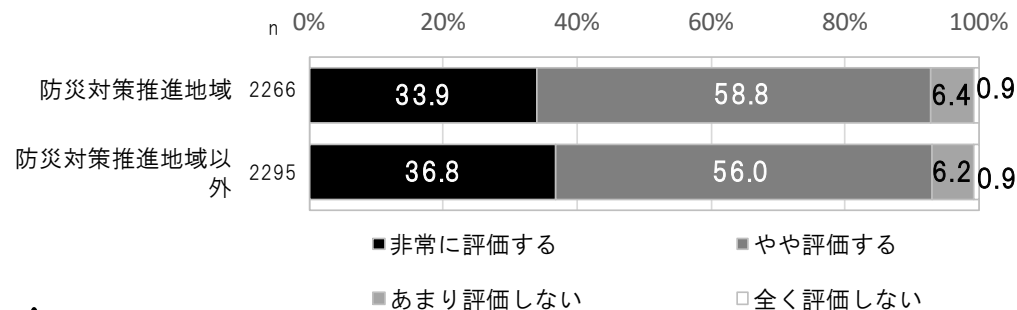
呼びかけへの評価

- 「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」での呼びかけを評価しますか。
※呼びかけを見聞きした人のみ

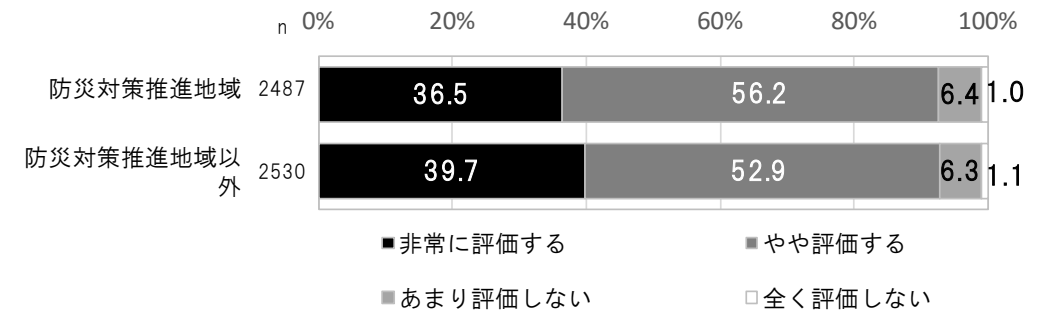
日頃からの地震への備えを再確認すること



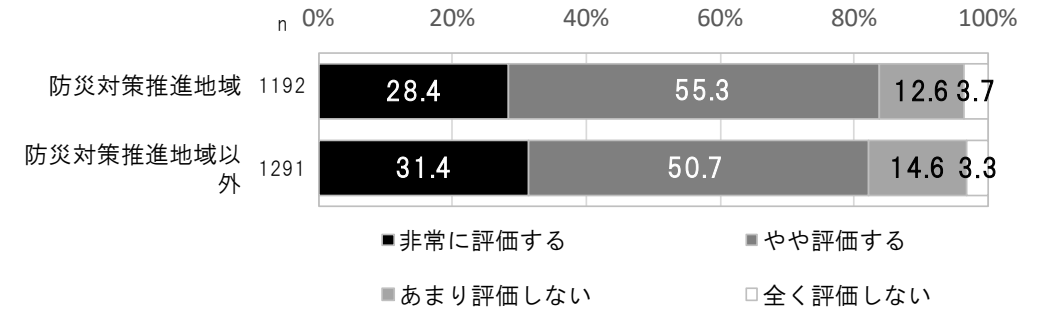
普段通りの生活が続けること



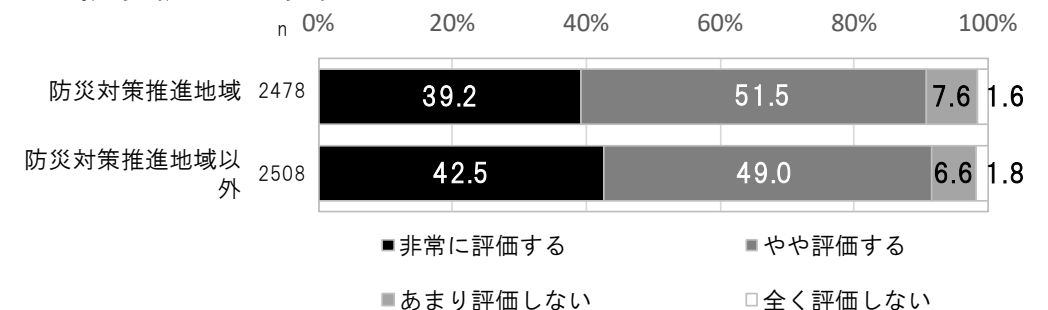
すぐに逃げられる体制での就寝など、できるだけ安全な防災行動をとること



海水浴へ行っても問題ないこと



食料品や防災用品の買い占めへの注意



2 アンケート調査 (2回目)

※この数値は速報値のため、今後修正される

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を聞いてからの行動

※情報を見聞きした人のみ
※前回と同一の設問

追加の
情報取得

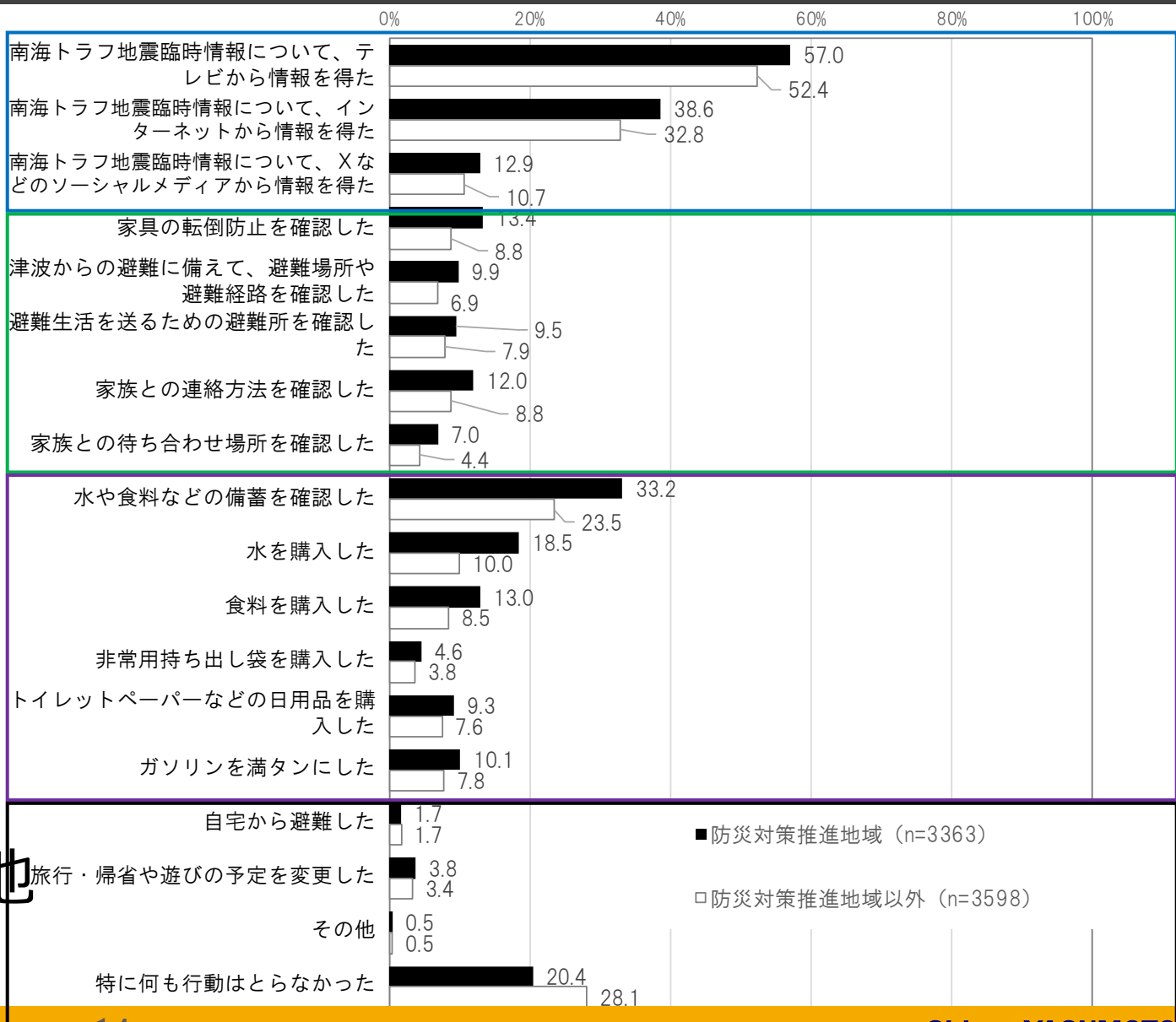
地震の揺れ・
津波対策

直後調査と比較すると

- 「何も行動はとらなかった」人の割合は変わらなかった
- ただし、備蓄関係は1割程度の増加傾向がみられた

備蓄

その他

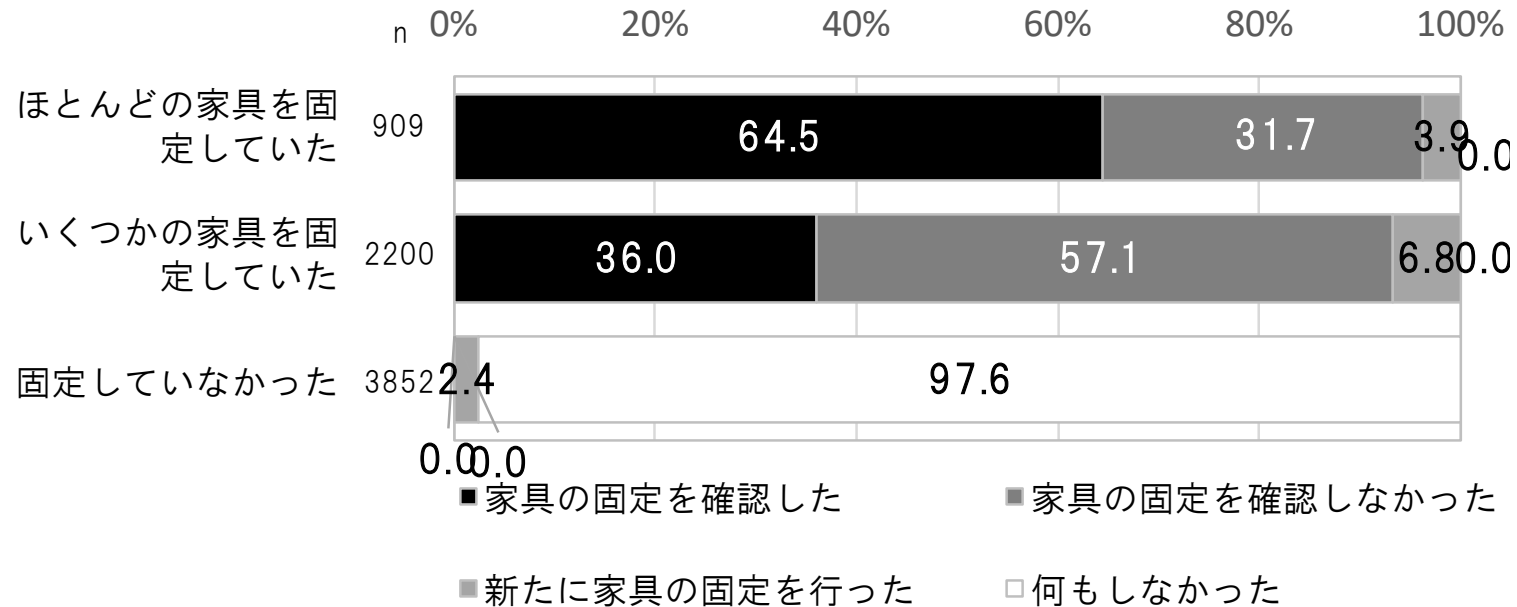


2 アンケート調査（2回目）

※この数値は速報値のため、今後修正される

家具の固定

- 8月8日に「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表された後、あなたは、ご自宅の主要な家具の固定を確認しましたか。※情報を見聞きした人のみ



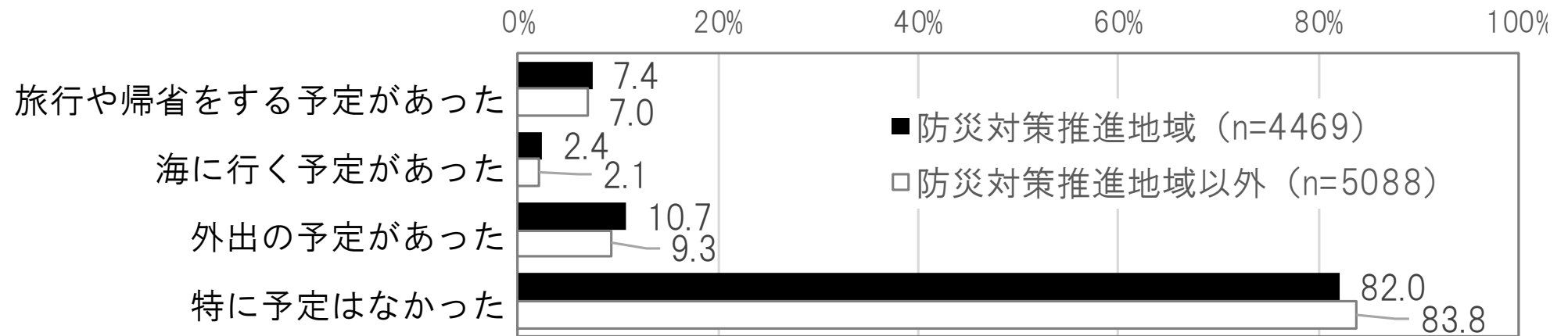
- もともと、「ほとんどの家具を固定していた」と回答した人の約6割が情報発表後に「確認」を行った
- もともと、家具の「固定していなかった」人が情報発表後に「新たに家具の固定」を行ったことはほぼみられなかった

2 アンケート調査（2回目）

※この数値は速報値のため、今後修正される

旅行や外出への影響①

- 8月8日に「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表された当時、あなたは8月9日から15日の期間に、旅行や外出などの予定はありましたか。（MA）



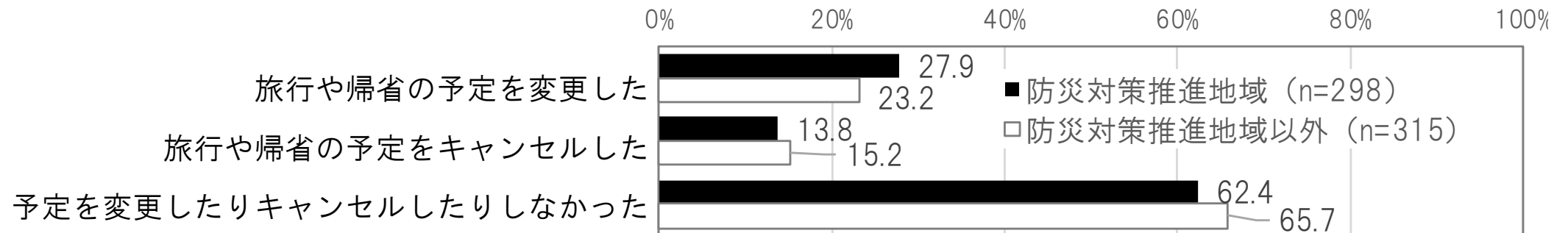
- 2割弱の人が当該期間中に予定があったと回答した

2 アンケート調査（2回目）

※この数値は速報値のため、今後修正される

旅行や外出への影響②

- 旅行や帰省をする予定があった人（全体の7.1%）のうち、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表されたことをふまえて、予定を変更したりキャンセルしたりした人（MA）
※情報を見聞きした人のみ



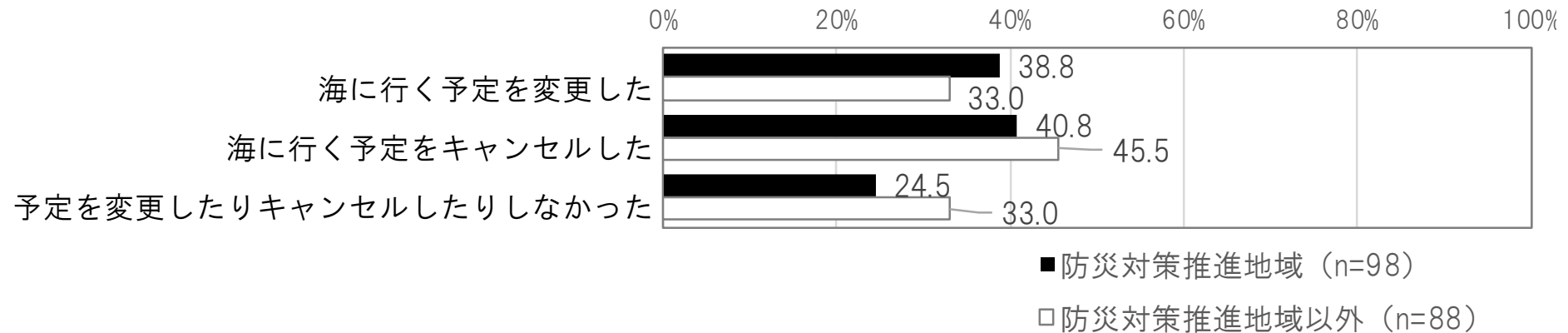
- 予定があった人の3割程度が何かしらの行動変容を行った
- 全体としては2%程度

2 アンケート調査（2回目）

※この数値は速報値のため、今後修正される

旅行や外出への影響③

- 海に行く予定があった人（全体の2.3%）のうち、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表されたことをふまえて、予定を変更したりキャンセルしたりした人（MA）



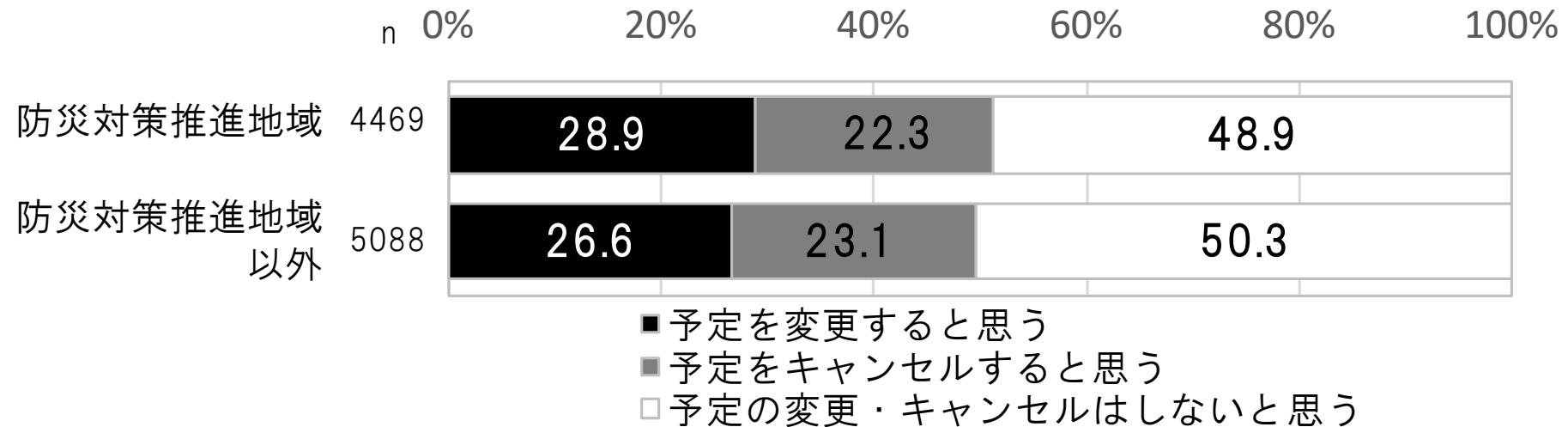
- そもそも、海に行く予定があった人は多くないが、7割程度が行動変容がみられ、その割合が非常に多かった
- 全体としては1%にも満たない

2 アンケート調査（2回目）

※この数値は速報値のため、今後修正される

今後、情報が発表された場合の旅行や外出への影響

- 旅行や帰省の予定があるときに、今後、再び、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表された場合、あなたはその予定を変更したりキャンセルしたりすると思いますか。



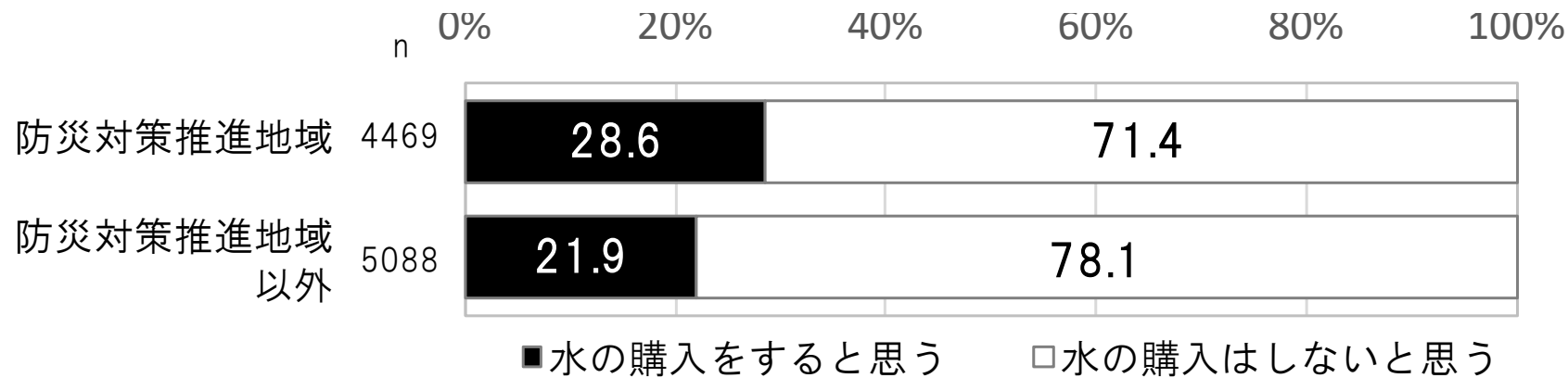
- 今後、情報が発表された場合に予定を変更・キャンセルすると思うと回答する人は約半数とかなり高かった

2 アンケート調査（2回目）

※この数値は速報値のため、今後修正される

（参考）今後、情報が発表された場合の地震への準備行動

- 今後、再び、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表された場合、あなたは、新たに、または追加で水を購入すると思いますか。



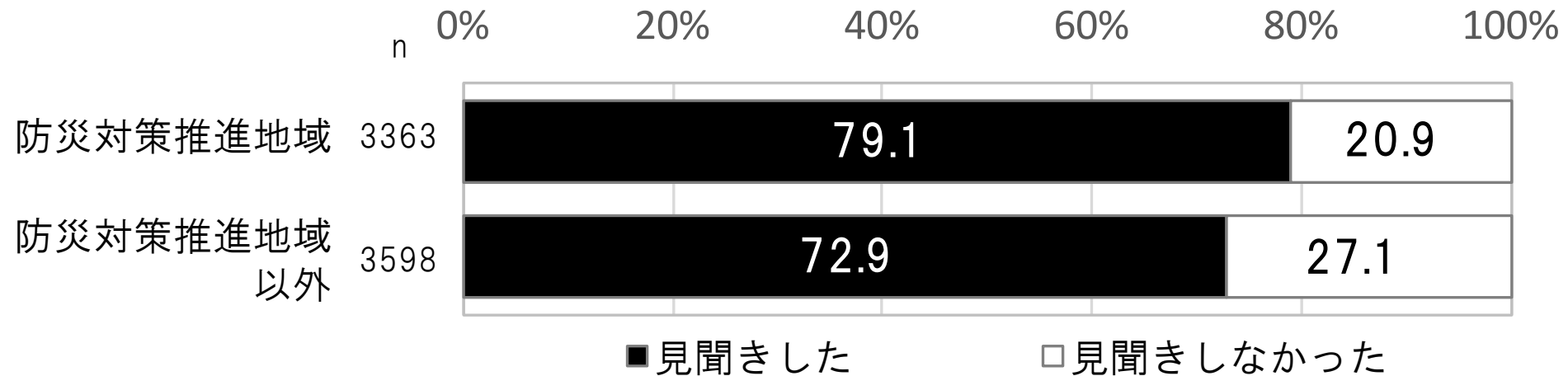
- 他の、今後の情報が発表された場合の行動意図（ここでは追加の水の購入）と比較しても、かなり旅行・外出への反応は強かった

2 アンケート調査（2回目）

※この数値は速報値のため、今後修正される

8月15日の情報認知

- この情報が発表された1週間後の8月15日に「特別な注意の呼びかけは終了する」と会見がありました。この情報を見聞きしましたか。 ※8日の情報を見聞きした人のみ



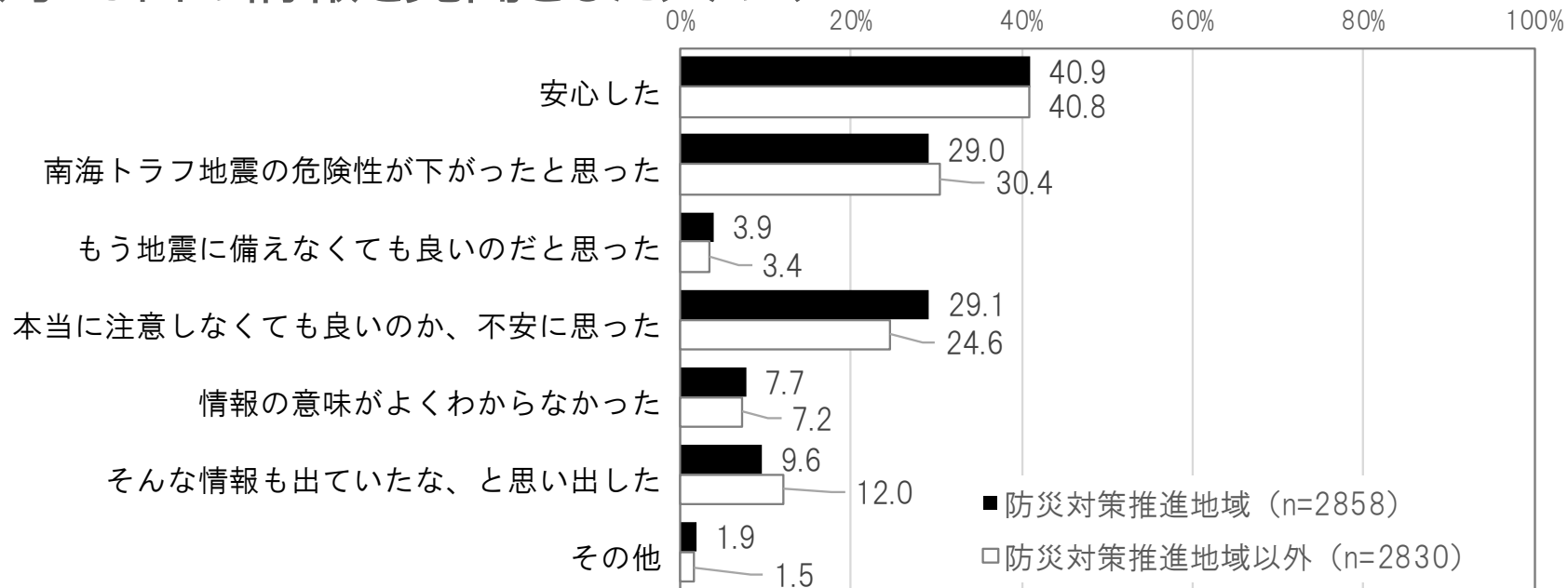
- 呼びかけの終了も比較的、多くの人認知していた
- 8日の情報を見聞きしていない人も含めると、「見聞きした」割合は6割程度と下がった

2 アンケート調査（2回目）

※この数値は速報値のため、今後修正される

8月15日の情報への反応

- あなたは、「特別な注意の呼びかけは終了する」という情報を見聞きして、どのように思いましたか。
(MA) ※8月15日の情報を見聞きした人のみ



- 約4割の人が安心した一方で、不安に思った人も3割程度であった
- 地震に備えなくても良い、と思った人はほとんどいなかった

| 03

まとめと考察

- **全体として、推進地域と推進地域以外で大きな差はみられなかった**
→推進地域に対する集中的な啓発が必要であろう
- **南海トラフ地震臨時情報を「予知情報」と誤解した人は2割程度と少数派**
→必ず大きな地震（南海トラフ地震）が起こる、と思ったわけではないであろう
- **「日頃からの地震への備えを再確認する」というメッセージは、多くの人が認知、評価していた**
→この情報を出す以上、明確なメッセージとしてこの点を強調することが重要ではないか
→ただし、新規に「家具固定」のような地震への準備行動を促す情報としては機能していなかった点は課題
- **この情報が（今後も含め）旅行や外出にもたらす影響は大きく、特に海水浴への影響は大きかった**
→巨大地震発生、その後の津波への不安感と考えられる
- **呼びかけの終了は、情報の認知に課題があるが、地震への準備が疎かになったわけではない**
→ただし、地震動が大きく、被害が大きい場合に社会の不安感が大きいと考えられるため、同様のメッセージで良いのかは検討すべき